

えのころぐさ

27日、2年生の体育の授業は梅雨の合間をぬって、校庭で陸上の授業です。

バトンパスの導入で、左手にもったバトンを次の走者の右手に渡す。バトンパスの基本の方法です。腕の角度・手掌の形、構えなどを確認し、「もう一つ足りないものは？」の問いに、生徒から「渡すときにGOと言う」とすぐさま回答が出ました。「GOでもハイでも、ホイでも、ポイでもいいから声を出して」と担当は笑いを誘っていました。練習したことしか本番でできません。生徒たちは、懸命にバトンパスに取り組んでいました。今、流行りのアンダーハンドパスを教



えてはいませんでした。そのことに疑問をもち、授業後、担当に確認してみると、「1年生は基本を、2年生でアンダーパスを、その次は、自分たちで考え工夫させる、基本なくして発展はありません。」と答えが返ってきました。全ての競技に言えることです。

周りに目をやると、「えのころぐさ」が元気になっています。「ネコジャラシ」が正式名称より一般的でしょうか？確認してみると、この穂を猫の視界で振る、首をくすぐるとじゃれて喜ぶところから名前が付いたと言われています。「ネコジャラシ」は俗称です。



ちょっと前まで整備されていた花壇に、雑草が覆いつくし始めています。初夏を確認しました。

3年生は「赤ちゃんのちからプロジェクト」に取り組んでいました。まずは、子育てネットワークピッコロの方々からレクチャーを受け、赤ちゃんに接するときのマナーを学びました。そして、「いない、いない、バー」の練習を重ねました。練習したことしか本番でできませんから。いよいよ、赤ちゃんとの交流です。



始めは、おっかなびっくりで赤ちゃんに触れあっていました。しかし、少しずつ距離を縮め、赤ちゃんから抱っこを求められるシーンを見ることができました。もちろん練習を重ねた「いない、いない、バー」を披露するシーンにも立ち会うことができました。生徒も先生方も小生もみんな、いろいろな人に抱っこされ、声をかけられ、いないいないばーと笑わせてもらって、ここまで育ってきました。したがって、自分のだけの命でないのです。

『あなたの命はみんなの愛のもとにある』

赤ちゃんを見ていると、自然と笑顔になります。「ガラガラ」と音に興味を示せばその姿に笑顔をもらい、おもちゃに興味を示せば、その好奇心に感心しました。赤ちゃんの姿をいつの間にか、小生の娘が小さい頃に被せていました。キャラクターに興味を示して、その度におもちゃ屋さんに走り購入し……。バカ親です。それも愛。一時、日本が誇る世界の「ハローキティ」にも興味をもちました。あれっ、ネコジャラシが好きなのでは？調べてみると、ハローキティは「明るくてやさしい女のこ」

ねこじゃないらしいのです。確認しました。



サンリオピューロランド HP より